

施策3 心のふれあう生涯学習の推進

●施策の基本的な方針（施策の目的）

少子高齢化の進展や、グローバル化、就業構造の変化、情報技術の発展など、市民を取り巻く社会情勢の変革が急速に進む中で、公民館・図書館等「学びの場」としての生涯学習・社会教育施設の整備とともに、学校・家庭・地域が一体となって子供たちの成長を支えるための生涯学習支援ネットワークを充実強化することにより、過去から未来に継承されるべき本市独自の地域文化の創造を図り、市民一人一人の生涯学習の成果を活かした参画と協力による地域づくりを進める。

●施策の達成目標

○対象（誰、何に対して働きかけるのか）

市民

○意図（対象をどのような状態にしたいのか）

- ・身近に学習しやすい場を持てる。
- ・ニーズに対応した学習活動ができるようにする。
- ・多くの市民に生涯学習の場で活躍してもらう。
- ・千葉市特有の伝統文化・文化財を知り、大切にしてもらう。

●成果指標

指標名	単位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
学習の場に対する市民の満足度(※)	%	(16年度) (29.4%)	—	—	40.0 (22年度)
学びたいことが学べている市民の割合 (生涯学習の機会が豊富にあると感じている市民の割合)	%	37.1	37.3	37.4	40.0 (22年度)
ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数と放課後子ども教室(18年度は地域子ども教室)ボランティア登録者数の合計	人	4,152	5,280 (目標達成)	6,053 (目標達成)	5,000 (22年度)
千葉市の伝統文化・文化財を知っている市民の割合	%	31.8	32.0	32.0	40.0 (23年度)

※ 平成21年度に調査中の市民1万人のまちづくりアンケートにおいて把握する。

●平成20年度の評価

- ・公民館の整備・修繕を計画的に進めるとともに、図書館サービスの充実を図り、身近に学習しやすい場の確保に努めた。
- ・市民ニーズに合わせた、よりきめ細かな学習機会の拡充に努めた。
- ・生涯学習を支援する人材を育成しネットワーク化を図り、生涯学習の場で活躍できる人材の確保に努めた。なお、ボランティア登録者数の目標値については平成23年度に再設定する。
- ・文化財保護条例に基づき、効果的に文化財の保護を行うとともに、積極的な市民への周知を行った。

●今後の課題及び施策等への反映方針

- ・公民館未設置地区の解消を図るとともに、老朽化が進んでいる公民館の改修・修繕等を計画的に進め、身近な学習しやすい場の確保に努める。また、図書館システムの活用による、新たな図書館サービスについて検討する。
- ・市民が互いに学び、学びの輪を広げるため、生涯学習ボランティアセンターの積極的な広報に努め、貴重なボランティアを有効に活用していく。
- ・文化財の保護については、文化遺産の把握・保護が急務である。また、事業者の指導・助言にも努めているが、年々照会が増加している。今後も、出土した文化財の公開・普及活動にも努め、より一層の文化財の保護体制の強化を図る。

●施策を構成する基本事業と評価

基本事業名 事業の概略	基本事業に対する評価
<p>3-1 生涯学習の場の確保</p> <p>公民館については、未設置地区の解消に努めるとともに、老朽化した施設の改修や冷暖房設備機器の改修等、市民の利便性向上に努める。</p> <p>図書館については、中央図書館を中心に、地区図書館等公民館図書室を含めた図書館ネットワークにより、利用者の利便性の向上に努める。</p>	<p>公民館の冷暖房設備機器等の改修については計画的に実施し、利用者に快適な環境を提供していく。</p> <p>公民館事業については、サークル等の指導・助言、人材の育成・派遣等により、利用者サービス等の拡充を図り、年間利用者数約123万人、講座等の受講者数約4万1千人に達するなど、多くの市民に「学びの場」を提供することができた。</p> <p>図書館業務については、インターネットからの検索・予約にも対応した図書館システムを平成19年度から導入し、市民の利便性の向上に努めた。</p>
<p>3-2 ニーズに対応した学習機会の拡充</p> <p>学びを通じて自分の人生を豊かにしてもらうため、また、楽しく充実して学んでもらうため、様々な学習機会の充実を図る。</p>	<p>生涯学習の中核施設として、平成13年に開館した生涯学習センターにおいて、学習情報の提供や相談事業の充実を図り、市民の主体的で創造的な学習活動を支援した。</p> <p>放課後子ども教室においては、放課後の児童の安全・安心な活動場所の設置に努めた結果、地域住民のボランティアとしての協力等を通じて、参加児童との新たな結びつきが形成されつつある。</p> <p>中央図書館においては、読書離れが進む子どもたちに、本に親しむ場として、おはなし会や児童文学講座等の講座を開催するなど、市民ニーズに対応した事業展開を図っている。</p>
<p>3-3 生涯学習を支援する人材の確保</p> <p>地域づくりを支える人材を育成するため、市民リーダーの養成、ボランティア研修等の学習機会の提供を図るとともに、社会教育関係団体への活動支援・育成を行う。</p>	<p>社会教育関係団体補助金として、PTA等の社会教育関係団体の事業に補助金を交付し、各団体の活動(研修・講座・教室)の活性化に貢献している。</p>
<p>3-4 千葉県特有の文化の保存と活用</p> <p>埋蔵文化財の保護・保存を図るため、発掘調査や資料等の保存・整理に努めるとともに、文化財の普及啓発活動を行う。</p> <p>また、市民の郷土意識を深め、文化財の保護を図るとともに、地域文化財の登録を行う。</p>	<p>文化財保護事業としては、平成19年4月に文化財保護条例を改正し、新たに「地域文化財」を2件登録した。</p> <p>郷土芸能保護事業として、ふるさと教室等を開催し、後継者の育成を図った。</p>

基本事業 3-1 生涯学習の場の確保

●基本事業の概要

- ・公民館の整備は、1中学校区1館の整備基準に基づき、未整備地区の解消に努めるとともに、老朽化した公民館の改修や冷暖房設備等機器の改修など、市民の利便性向上に努める。
- ・中央図書館を中心に、地区図書館、分館及び公民館図書室を含めた図書館ネットワークを構築しており、図書館サービス網の充実に努めるとともに、図書館システムの活用により、図書館利用者の利便性の向上にも努める。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
身近に学習しやすい場を持てる。

●成果指標

指標名	単位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
学習の場に対する市民の満足度(※)	%	(16年度) (29.4)	—	—	40.0 (22年度)
施設をよく利用する市民の割合(※)	%	(16年度) (45.0)	—	—	50.0 (22年度)
身近に学習しやすい場を持っている市民の割合	%	66.2	66.5	66.6	70.0 (22年度)

※ 平成21年度に調査中の市民1万人のまちづくりアンケートにおいて把握する。

●平成20年度の評価

- ・公民館の整備・修繕を計画的に進めるとともに、図書館サービスの充実に図り、身近に学習しやすい場の確保に努めた。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・既存公民館の多くが開館後20年以上経過しており、老朽化が著しいため計画的な改修に取り組む必要があり、未整備地区の解消を図るとともに、老朽化が進んでいる公民館の改修・修繕等を計画的に進め、身近に学習しやすい場の確保に努める。
- ・図書館システムの活用による、新たな図書館サービスについて検討する。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略	貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
3-1-1 公民館管理事業 公民館改修、公民館事業の実施、サークル・団体育成の指導・助言、人材の育成・派遣等により、公民館の利用拡大、利用者サービスの拡充を図る。	B	公民館冷暖房設備改修工事4館及び下水道接続工事等の公民館改修を行った。また、主催事業を全47公民館で781事業実施した(延受講者数41,491人、利用者数1,226,298人、クラブ・サークル等連絡会団体数2,121団体・26,827人)。 (519,887千円)

<p>3-1-2 南部児童文化センター管理事業</p> <p>講座の開催、少年団体の育成等により、センターの利用拡大、利用者サービスの拡充を図る。</p>	B	<p>子ども卓球教室、夏休み子ども陶芸教室、親子で体験茶道体験教室、子どもリーダー講習会等16事業を実施した(延受講者数640人)。</p> <p>(5, 522千円)</p>
<p>3-1-3 科学館管理運営事業</p> <p>科学に関する知識の普及及び啓発並びに青少年の創造力育成のため、参加体験型科学館の整備及び管理運営を行う。</p>	B	<p>「人が主役」、「参加体験型」の運営コンセプトに基づき、展示、教育普及、プラネタリウム、ボランティア等の各種事業を実施した。10月には利用者数50万人を達成した。(利用者数404,735人)</p> <p>(535,132千円)</p>
<p>3-1-4 図書館システム事業</p> <p>図書館システムは中央図書館・地区図書館・分館・公民館図書室をネットワークで結び、蔵書管理・貸出・返却等の基幹業務を担うシステムであるほか、インターネットや館内検索機(OPAC)からの検索・予約、電子メールによるレファレンスサービス等を利用者に提供するシステムである。</p> <p>また、中央図書館の自動出納書庫とも連動しており、これにより開架していない自動出納書庫に格納されている図書館資料についても、迅速な貸出・返却が可能となっている。</p> <p>中央図書館では、この図書館システムのサーバーやソフトウェア、さらに各館に設置している端末機など図書館システムの運用・保守管理を一括して行っている。</p>	B	<p>20年度の貸出件数は565万件、予約件数108万件、貸出利用者数176万人。</p> <p>(249,125千円)</p>
<p>3-1-5 図書館協議会運営事業</p> <p>図書館法第14条に基づく館長の諮問機関で、協議会委員10人、任期2年となっている。</p>	—	<p>協議会の年間開催回数:3回 事業報告、事業計画について報告するとともに、「これからの時代にふさわしい千葉市図書館サービスの在り方について」の諮問に対し、21年3月答申を受けた。</p> <p>(260千円)</p>
<p>3-1-6 地区図書館管理運営事業</p> <p>地区図書館の図書資料を購入し、その資料の閲覧、貸出、レファレンス、整理及び保存を行う。</p>	B	<p>図書館資料購入数は15,828冊、図書貸出数は2,970,682冊。</p> <p>(263,679千円)</p>

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

重点事業が多く、千葉市教育委員会において生涯学習の場の確保に力を入れていることが感じられる。市民にとっての身近な学習の場として、公民館が充実していることは、政令指定都市として特色があり、千葉市の生涯学習施策における特長の一つである。

また、中央図書館を中心として市内の図書館をネットワークで結ぶなど図書館システムが構築されているほか、参加体験型をコンセプトとする科学館など、特色ある施設も充実している。

「学習の場に対する市民の満足度」「施設をよく利用する市民の割合」の成果指標における数値も上昇してきており、平成22年度の目標値が上方修正された。基本事業の達成目標に向けて、十分に目標が達成されている。

基本事業3-2 ニーズに対応した学習機会の拡充

●基本事業の概要

- ・利用しやすい図書館、行ってみたいくなる図書館を目指して、利用者の立場に立ったサービスを行う。
- ・学びを通じて自分の人生を豊かにしてもらうこと、楽しく充実して学んでもらうこと、多様化・高度化する市民ニーズに対応することを目標として、様々な学習機会の充実を図る。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
ニーズに対応した学習活動ができるようにする。

●成果指標

指標名	単位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
学びたいことが学んでいる市民の割合 (生涯学習の機会が豊富にあると感じている市民の割合)	%	37.1	37.3	37.4	40.0 (22年度)
講座をよく受講する市民の割合(※)	%	(15年度) (5.4)	—		15.0 (22年度)

※ 平成21年度に実施予定の次期生涯学習推進計画基礎調査において把握する。

●平成20年度の評価

- ・市民ニーズに合わせた、よりきめ細やかな学習機会の拡充に努めた。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・図書館・図書室の資料費が大幅に減少しており、市民ニーズに対応した学習活動に支障がでているが、図書館システムを運用し、効率的な図書サービスを提供していく。
- ・地域の教育力を活用し、子どもたちの放課後の居場所確保のため、「放課後子ども教室」の充実に努めていく。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略	貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
3-2-1 生涯学習センター管理運営事業 本市の生涯学習の中核施設として平成13年に開館、施設の貸し出しと各種生涯学習事業を行う。 18年度より指定管理者制度を導入し、(財)千葉市教育振興財団を管理者として指定した。	B	施設利用件数は9,925件、講座数は351講座、講座受講者数は53,717人。ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数734人。 (677,517千円)
3-2-2 生涯学習振興事業 生涯学習事業の実施や学習機会の情報を提供することにより、生涯学習活動への理解と実践を促し、生涯学習の推進を図るため、生涯学習に関する広報誌や施設紹介ガイドの作成等を実施する。	—	「生涯学習施設ガイド 2008」を8,000部発行した。また、生涯学習情報誌「できる」を年2回、計30,000部を発行した。 公民館、区役所等で無償配布している。 (981千円)

<p>3-2-3 公開講座開設事業補助金交付</p> <p>千葉市・高等教育機関連携公開講座開設事業補助金交付要綱により、市内に所在する大学・短期大学の行う公開講座に対して補助金を交付する。</p>	—	<p>4大学4講座の申請があり、全事業に対して補助金を交付した。総受講者数は、1,859人。申請数は減少の傾向にあり、大学等公開講座の助成について要綱を改正し、20年度より1講座当たり補助額の上限を20万円とした(19年度は1講座当たり上限50万円)。</p> <p>(720千円)</p>
<p>3-2-4 生涯学習審議会運営事業</p> <p>千葉市生涯学習審議会設置条例に基づき設置する「千葉市生涯学習審議会」の運営。生涯学習審議会は、有識者より構成し、教育委員会または市長の諮問に応じ生涯学習推進に必要と認められる重要事項を調査審議し、必要に応じ建議を行う。</p>	—	<p>会議開催回数は2回。教育基本法、社会教育法、図書館法、博物館法の改正に伴い、生涯学習推進計画の見直しについて協議を行った結果、「現計画において十分対応しているため改定しない」との結論となったほか、生涯学習推進計画の進捗状況等について、審議を行った。今後も、第4次生涯学習推進計画策定に向けて、審議を行っていく。</p> <p>(300千円)</p>
<p>3-2-5 特別教室開放推進事業</p> <p>地域住民の生涯学習、児童・生徒の健全育成、地域活動のため、市内2小学校(瑞穂小学校、扇田小学校)において、土・日曜日に特別教室(視聴覚室、家庭課室、音楽室、図画室、工作室等)を開放する。</p>	—	<p>利用者数は、2,515人。</p> <p>(1,155千円)</p>
<p>3-2-6 公民館運営審議会運営事業</p> <p>千葉市公民館設置管理条例第9条の規定により設置する「公民館運営審議会」の運営。</p>	—	<p>会議開催回数は、各区6公民館において各2回ずつ。各区公民館の各種事業の企画実施及び地域の学習課題や学習ニーズ、公民館の利用方法等について調査審議を行った。</p> <p>(1,859千円)</p>
<p>3-2-7 児童文化センター運営審議会運営事業</p> <p>千葉市児童文化センター設置管理条例第9条の規定により設置する「児童文化センター運営審議会」の運営。</p>	—	<p>会議開催回数は2回。各種主催事業や運営について審議した。</p> <p>(221千円)</p>
<p>3-2-8 放課後子ども教室推進事業</p> <p>19年度より文部科学省の国庫補助事業を受け、市内120小学校で、地域の大人の力により放課後の子どもの居場所づくりを行う。対象者は事業実施小学校に通う1～6年生で希望する者、実施回数は各小学校で異なるが概ね週1回年間40回程度、活動内容は体験活動(昔遊び、スポーツ、工作その他)、交流活動、学習活動等で、活動場所は各小学校の体育館、特別教室、グラウンド等となっている</p>	B	<p>参加児童数は7,569人、登録指導員・協力員数は5,319人、延べ実施回数は3,335回、放課後子ども教室への参加率(参加児童数/小学校児童数)は14.5%となっている。</p> <p>(16,875千円)</p>
<p>3-2-9 社会教育事業</p> <p>知的障害をもつ市民(18歳から30歳までの青少年)を対象として、社会性、協調性を養い、社会的に自立することを目的に、レクリエーション活動や宿泊研修講座等の学習機会を提供する。</p>	—	<p>みなと青年教室(知的障害児の社会体験事業)を実施し、社会性・協調性を養うことができた。参加者は、30人で、年間10回の講座を実施し、延べ258人が参加した。</p> <p>(783千円)</p>
<p>3-2-10 中央図書館サービス事業</p> <p>図書館資料の整備、貸出、予約、レファレンスサービスを充実させ、市民ニーズに対応した図書館サービスを展開する。</p>	B	<p>個人の貸出冊数は1,267,533冊で、前年比2%増。インターネット予約も含めた全館の予約受付件数は981,516件で前年比23%増であり、中央図書館を経由して全館の資料を有効に活用し、市民のニーズに応えた。</p> <p>(232,458千円)</p>

3-2-11 中央図書館管理運営費(中央図書館各種講座等) 中央図書館のおはなし会・児童文学講座などの催物を開催し、ニーズに対応した学習活動ができるようする。	—	講座やお話会等の事業参加者数は合計で 7,009 人。啓発リーフレットの配布、企画展示等により読書活動を推進している。 (3,705千円)
3-2-12 中央図書館管理運営費(移動図書館) 移動図書館の運営により、図書館未設置地域での図書館サービスの充実を図る。	—	28ステーション、蔵書数 23,095 冊、貸出数 71,202 冊。前年度に比べ貸出数が約 15%の伸びを示している。 (4,215千円)

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

学習機会の確保のための施策が着実に実行されている。

図書館サービスについては、平成 19 年に導入したインターネットからの資料の予約数が順調に伸びていることなど、市民のニーズに応えた利便性の向上が図られている。市民の学習機会の拡充への取り組みが、学びたいことが学べているという市民の意識に一層反映されることを期待する。

市民ニーズに対応した学習活動ができるようにするという基本事業の達成目標に向けて概ね目標が達成されている。

基本事業 3-3 生涯学習を支援する人材の確保

●基本事業の概要

- ・地域づくりを支える人材を育成するため、市民リーダーの養成、ボランティア研修等の学習機会の提供を図るとともに、社会教育関係団体への活動支援・育成を行う。
- ・社会教育関係団体の活動振興及び促進のために、活動費等の助成、事業の共同参画等を行うとともに、指導者の養成や事業の後援を行い団体育成を行う。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
多くの市民に生涯学習の場で活躍してもらう。

●成果指標

指標名	単位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数と放課後子ども教室(18年度は地域子ども教室)ボランティア登録者数の合計	人	4,152	5,280 (目標達成)	6,053 (目標達成)	5,000 (22年度)

●平成20年度の評価

- ・生涯学習を支援する人材を育成しネットワーク化を図り、生涯学習の場で活躍できる人材の確保に努めた。なお、ボランティア登録者数の目標値については平成23年度に再設定する。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・社会教育関係団体は、会員の高齢化が進んでおり、会員数も減少傾向にあることから、活動の活性化が難しくなっているため、今後も団体への指導・助言を行っていく。
- ・市民が互いに学びあい、学びの輪を広げるため、生涯学習ボランティアセンターを設置したので、積極的な広報に努め、貴重なボランティアを有効に活用していく。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略	貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
3-3-1 社会教育振興事業 本市における社会教育の振興及び発展のために、功績の顕著であった個人・団体への感謝状の贈呈を行う。	—	社会教育功労者感謝状贈呈式を開催し、社会教育の振興を図った(11月)。 (305千円)
3-3-2 社会教育関係団体補助事業(生涯学習振興課所管分) 社会教育関係団体の活動を充実させるため、社会教育事業の事業費に対して原則として3/10以下の補助金を交付する。	—	PTA等の社会教育関係団体の各種事業に対し補助金を交付するとともに、団体の運営・活動等に対して支援した。 (2,514千円)
3-3-3 社会教育関係団体補助事業(青少年課所管分) 社会教育関係団体の活動を充実させるため、社会教育事業の事業費に対して原則として3/10以下の補助金を交付する。	—	子ども会等の社会教育関係団体の各種事業に対し補助金を交付するとともに、団体の運営・活動等に対して支援した。 (4,345千円)

<p>3-2-1(再掲) 生涯学習センター管理運営事業</p> <p>本市の生涯学習の中核施設として平成13年に開館、施設の貸し出しと各種生涯学習事業を行う。18年度より指定管理者制度を導入し、(財)千葉市教育振興財団を管理者として指定した。</p>	<p>B</p>	<p>施設利用件数は9,925件、講座数は351講座、講座受講者数は53,717人。ちば生涯学習ボランティアセンター登録者数734人。</p> <p>(677,517千円)</p>
<p>3-2-9(再掲) 放課後子ども教室推進事業</p> <p>19年度より文部科学省の国庫補助事業を受け、市内120小学校で、地域の大人の力により放課後の子どもの居場所づくりを行う。対象者は事業実施小学校に通う1～6年生で希望する者、実施回数は各小学校で異なるが概ね週1回年間40回程度、活動内容は体験活動(昔遊び、スポーツ、工作その他)、交流活動、学習活動等で、活動場所は各小学校の体育館、特別教室、グラウンド等となっている</p>	<p>B</p>	<p>参加児童数は7,569人、登録指導員・協力員数は5,319人、延べ実施回数は3,335回、放課後子ども教室への参加率(参加児童数/小学校児童数)は14.5%となっている。</p> <p>(16,875千円)</p>

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

成果指標が、主催事業数からボランティア登録者数に変更されたが、これは生涯学習を支援する人材の確保状況をより実態に即して明確に示すことができる指標であり、大きな改善であると評価できる。

ボランティア登録者数は年々増加してきており、人材の確保に向けて着実な前進が見られる。また、生涯学習コーディネータが、ボランティア登録者とボランティアを依頼したい市民との架け橋となって、丁寧に学びのサポートを行い、千葉市民の学びの輪が広がっている。多くの市民に生涯学習の場で活躍してもらおうという達成目標に向けて、成果指標において順調な進捗が見られ、十分に目標が達成されていると認められる。

基本事業 3-4 千葉市特有の文化の保存と活用

●基本事業の概要

- ・埋蔵文化財の保護・保存を図るため、発掘調査や出土品の整理・史料等の保存・整理に努めるとともに、文化財の普及啓発活動を行う。
- ・市民の郷土意識を深め、継続的な文化財の保護を図るとともに、地域文化財の登録等を行う。
- ・加曽利貝塚博物館では、縄文時代や貝塚文化について理解を深めるため、常設展、企画展、野外展示や講座・体験学習等の教育普及事業を行う。
- ・郷土博物館では、千葉市の歴史・民俗資料を収集・調査し、保存展示に利用する。
- ・市史編纂事業では、「史料編近世」までの刊行を進めてきたが、さらに、「史料編近現代」の編集のための資料調査を行う。

●基本事業の達成目標

- 対象（誰、何に対して働きかけるか）
市民
- 意図（対象をどのような状態にしたいのか）
千葉市特有の伝統文化・文化財を知り、大切にしてもらう。

●成果指標

指標名	単位	18年度	19年度	20年度	目標値 (目標年度)
千葉市の伝統文化・文化財を知っている市民の割合	%	31.8	32.0	32.0	40.0 (23年度)

●平成20年度の評価

- ・文化財保護条例の改正に基づき、効果的に文化財の保護を行うとともに、積極的に市民に周知を行った。

●今後の課題及び基本事業等への反映方針

- ・文化財の保護については、文化資産の把握・保護が急務である。また、埋蔵文化財については事業者への指導・助言にも努めているが、年々問い合わせは増加している。出土した文化財の公開・普及活動も含め、より一層の文化財の管理体制の強化を図っていく。
- ・博物館の各種事業においては、より多くの市民が歴史を学べるように学習機会の拡充を図る。

●基本事業を構成する事務事業

事務事業名 事業の概略	貢献度	平成20年度事務事業の実施状況及び決算額
3-4-1 埋蔵文化財調査センター管理事業 文化財保護法第3条の規定に基づき、文化財の適切な保存・収納・普及・活用に資するため、埋蔵文化財調査センターの維持・管理、活用を行う。	—	施設維持管理とともに文化財普及事業を実施しており、施設見学者数は4,081人、文化財普及事業参加者は4,026人であった。 (22,443千円)
3-4-2 文化財管理事業 文化財保護法第3条の規定に基づき、文化財の適切な保存に資するため、指定文化財の維持・管理、指定文化財所有者への補助を実施する。	—	指定文化財所有者への補助事業として、県指定文化財管理補助2件、市指定文化財管理補助2件を実施した また、指定文化財の維持管理事業として、旧生浜町役場庁舎管理委託、史跡等保全管理業務、旧神谷伝兵衛稲毛別荘修復等を行った。20年度の旧生浜町役場庁舎見学者数は1,563人。 (9,678千円)

<p>3-4-3 文化財調査保護事業</p> <p>文化財保護法第3条、第184条、190条の規定に基づき、市内の文化財に関する調査等を実施するとともに、文化財保護審議会を開催する。</p>	—	<p>20年6月に地域文化財として、「登戸の神楽囃子」「平川町内会文書」の2点の登録を行った。また、12月から2月にかけて、市民から身近な文化財に関する情報を募り、「地域文化財」に係る調査を行っている。</p> <p>文化財保護事業として、埋蔵文化財所在の有無に関する事務18件、文化財保護法第92条届出に関する事務15件、文化財保護法第93条届出に関する事務29件、文化財保護法第94条に関する事務2件、文化財保護法第99条の2に関する事務3件の事務処理を行った。</p> <p>また文化財保護審議会を3回開催した。</p> <p>(2, 362千円)</p>
<p>3-4-4 文化財普及事業</p> <p>市の文化財を広く市民に普及させるため、文化財や博物館に関するパンフレットや説明板等を作成する。</p>	—	<p>新たに地域文化財とした「登戸の神楽囃子」「平川町内文書」の2件について、HP や市政だよりによる広報を行った。</p> <p>(-)</p>
<p>3-4-5 公共事業埋蔵文化財発掘調査</p> <p>文化財保護法第3条、第184条に基づき、埋蔵文化財の発掘調査や出土品や記録品の整理・刊行を行う。</p>	—	<p>発掘調査5遺跡、整理・報告書作成2遺跡である。</p> <p>なお、国庫補助事業として、市内遺跡について発掘調査4遺跡、再整理1遺跡を実施した。</p> <p>(112, 711千円)</p>
<p>3-4-6 郷土芸能保護事業</p> <p>文化財保護法第3条に基づき、地域住民に理解を深めてもらうための体験教室を行い、郷土芸能の保存・振興を図る。また、後継者養成及び用具補修に対し補助金を交付している。</p>	—	<p>子どもたちが地域に伝承されてきた郷土芸能を体験し理解する等のため、「ふるさと教室」を実施した。20年度は、2会場24回開催、参加人数は138人。</p> <p>郷土芸能を伝承する地域において後継者を養成するため、郷土芸能保護事業を実施した。参加人数は223人。</p> <p>(858千円)</p>
<p>3-4-7 加曾利貝塚博物館運営事業</p> <p>博物館学芸事業として、資料の展示、収集保管、調査研究、教育普及等を実施する。</p>	B	<p>考古学講座1回、郷土史講座1回、ミニ企画展2回、土器づくり体験学習4回を実施し、火起こし体験者は延べ 約10, 000人であった。</p> <p>(20年度は、10月21日から3月31日まで改修工事のため休館)</p> <p>(4, 484千円)</p>
<p>3-4-8 加曾利貝塚博物館管理事業</p> <p>施設管理、修繕、史跡加曾利貝塚管理、管理庶務等。</p>	—	<p>建物管理業務委託、南貝塚草刈管理業務委託、消防設備、自家用電気工作物、浄化槽、圧力タンク等の管理業務委託、受付等の雇用他博物館庶務業務を実施した。</p> <p>(20, 367千円)</p>
<p>3-4-9 郷土博物館事業(学芸 - 歴史・民族)</p> <p>博物館学芸事業として、資料の展示、収集保管、調査研究、教育普及等を実施する。</p>	B	<p>展示事業(特別展1回、企画展4回)、教育普及事業(体験学習、歴史講座、ふるさと講座、火縄銃演舞、展示解説ボランティアの育成・活用、史跡散歩)、調査研究事業(千葉氏関係、千葉市関係、研究紀要の発行)等を実施した。</p> <p>(7, 189千円)</p>
<p>3-4-10 郷土博物館事業(施設管理)</p> <p>施設の維持管理、博物館協議会の運営、博物館の整備等</p>	—	<p>警備委託、清掃委託、各設備保守委託、光熱水費、非常勤職員賃金、博物館協議会開催(2回)の事業等を実施した。</p> <p>(27, 428千円)</p>

<p>3-4-11 市史編纂事業</p> <p>千葉市の歴史に関する史料、民族資料を収集・整理・調査・研究する千葉市史の編纂事業及び千葉市史研究講座、古文講座等を実施する教育普及に係る事業を行っている。</p>	<p>—</p>	<p>市史編纂会議2回、市史編集委員会1回、編纂史料調査、市史研究講座、初級・中級古文書講座、古文書整理実習、「千葉いまむかし」・「千葉市史編さんだより」の発行事業等を実施した。</p> <p>(11, 299千円)</p>
---	----------	--

●千葉市教育委員会事業評価委員の所見

千葉市における特徴ある伝統文化、文化財の保存・活用に必要な諸事業が着実に進められている。
 今後は、平成19年度に創出した地域文化財の登録件数がさらに増加し、身近な文化財への市民の関心が一層高められていくことを期待する。
 基本事業の達成目標に向けて概ね目標が達成されている。